

未曾有の大災害となった今回の東日本大震災。足元を揺るがす激しい地震と、何もかも押し流した大津波とその引き波は、そこに住む人たちの住居を破壊し、日常生活にみぎついていた活気を奪い去っていった。しかし、破滅的被害を受けた地域は、すでに復興への強い意欲を見取ることが出来る。とりあえず安全な場所に集まった避難者の集団は、初めのうちは恐ろしい状況を口にしていたが、やがて地元に戻ろうと、残された家並みや田畑を見つめ、復興への期待を胸に懐きながら寒い夜を過ごしているように思われる。高台に居住していても我が家に残った人も、大急ぎで避難所に逃げてきた人も、自分たちが住み、親しんできた町を見捨てるような言動は見られなかった。



災害の恐ろしさが収まるに従って、避難所生活への適応のプロセスが始まる。まず起こってくるのが無力さと抑うつ、交錯、災害時の情景の断片のフラッシュバックである。ここで求められるのが、リーダーシップに富んだ校長先生とか、町会長さんなどのゲートキーパーの役割で、さまざまな情報がこのゲートから入り、避難者全員に伝えられる。またまた起こった原子力発電所のトラブルも、その内容や具体的数値などの情報も安心して復旧を待つことのできるものであった。

原子力発電の装置について、この説明は明快であり、放射能の流出の情報も詳しい。放射能というだけで恐ろしいという思いは、各地で観測された放射能レベルの数値によりこれを一変させるはずであった。しかし、生命に危険を及ぼすような値ではないという学者や省庁の説明にもかかわらず、薬物野菜や水道水が放射能で危険だという風評となつて、多くの人に情緒反応を引き起こし、各地のスーパーの棚から、野菜やペットボトルが姿を消した。

みんなで考えるメンタルヘルス (最終回)

災害と風評被害

中根 晃 (理事長・元実践女子大学教授)

これらの商品は前日に売れた数量を任せる仕組みなので、何人も人が心配して余分に買えば店頭が空になるのはごく当たり前の事象なのだが、絶対的な不足という思い込みは多数の人たちの買いあさりや招き寄せを招き、現在の放射能レベルはただちに人間の生命に危険を及ぼすような値ではないと終始説明しているが、これも風評の一翼を担ってしまった。

今観測された放射性ヨード131と放射性セシウム137は、使用済みの燃料プールからのものでなく、核燃料が生じたものなので原子炉内部のどこかから漏れ出ていると考えられ、専門的な対応が必要である。これらの放射性同位元素は、それぞれの半減期の倍の時間の後には限りなくゼロになっていく。ヨード131の半減期は8・04日なので、半月もするとベータ崩壊して他の物質になつてしまふ。発生する放射能はベータ線、すなわち電子線は細胞のDNAにぶつかる時、それを破壊する。これは化学反応のような連続的な過程ではなく、当たるか当たらないかの確率の問題なので、線量が多ければ、それだけ確率が高くなる。



「都忘れ」 油彩・カンバス 愛知県立芸術大学 美術学部 美術学科 芸術学専攻 3年 白井 弓子

大量の放射性ヨードが生じたチェルノブイリの事故では、今回とは比べものにならないほど大量の放射線ヨードを発生し、広範囲な地域の子どもに甲状腺がんを引き起こした。放射性セシウム137の半減期は30・2年と長い、人体では一時的に筋肉に取り込まれ、半減期2・25分のバリウムへと崩壊するなどして、体外に排出されるため、チェルノブイリの事故でも筋肉腫の発生はなかった。こうした具体的情報は、これらからどんなことが起こるか分からないという不安を防止する。避難所への情報は具体的内容を提示して、当面の不便、不自由を耐えてもらうことであらう。



厳しい練習を終え、帰宅前に女子マネージャーが作ってくれたおにぎりでお腹を満たす選手たち



公立高校には珍しく設備の整ったグラウンド。練習試合でも熱心に応援する岩商ファンが詰めかける

甲子園球場でセンバツ大境に位置する岩商市の県立岩商商業高校でも、取材に出場がかなわなかった全国大会では、春の県大会、夏の選手権を目指して厳しい練習や試合に精を出している。山口県東部、広島との県境に位置する岩商市の県立岩商商業高校でも、取材に出場がかなわなかった全国大会では、春の県大会、夏の選手権を目指して厳しい練習や試合に精を出している。

甲子園では好成績を残しているし、なんといっても山口県からの出場校は圧倒的に県立、市立の公立高校ばかりである。丘陵地にある同校は、スポーツを楽しむ環境が実にすばらしい。専用の野球場、300メートルのトラックがとれる陸上競技場、5面の軟式テニスコートのほか、バスケット、ハンドボールのコートにプール、それに体育館と卓球専用の球技場もある。

「外から見ていると、もっともっとうるはすな、本人はほとんどで妥協してしまっている、そこがじつと辛いところだ」と、監督は、長い目で田上君の成長をじっくりと見守っているのではないだろうか。彼はまだ2年ある。成長が期待できる、楽しみな選手だ。

「今年のセンバツでは、史上初めて商業高校が1校も出場できなかったことが話題になりましたが、山口でも少子化のため商業と工業が合併し、純然たる商業高校は、岩商商、防府商、宇部商、下関商の4校に減りました」



田上 可貴君 (16)

「男子は総じておとなしい遠征しているんですが」です。休休みには、教室には女の子に占領され、男子は納得させられる。



投手に転向してまだ1年の田上君。ピッチングフォームはぎこちないが、持ち味のスピードボールは魅力的

「外から見ていると、もっともっとうるはすな、本人はほとんどで妥協してしまっている、そこがじつと辛いところだ」と、監督は、長い目で田上君の成長をじっくりと見守っているのではないだろうか。彼はまだ2年ある。成長が期待できる、楽しみな選手だ。

燃える青春

部活動拝見 硬式野球部

山口県立岩商商業高校 2年

チーム期待の星 140キロ出せるか

山口県東部、広島との県境に位置する岩商市の県立岩商商業高校でも、取材に出場がかなわなかった全国大会では、春の県大会、夏の選手権を目指して厳しい練習や試合に精を出している。

甲子園では好成績を残しているし、なんといっても山口県からの出場校は圧倒的に県立、市立の公立高校ばかりである。

丘陵地にある同校は、スポーツを楽しむ環境が実にすばらしい。専用の野球場、300メートルのトラックがとれる陸上競技場、5面の軟式テニスコートのほか、バスケット、ハンドボールのコートにプール、それに体育館と卓球専用の球技場もある。

「外から見ていると、もっともっとうるはすな、本人はほとんどで妥協してしまっている、そこがじつと辛いところだ」と、監督は、長い目で田上君の成長をじっくりと見守っているのではないだろうか。彼はまだ2年ある。成長が期待できる、楽しみな選手だ。